

I. 令和4年度末事業概況

本年のわが国の経済は、ロシアのウクライナ侵攻の長期化による原材料費の高騰による物価高や金融緩和政策の継続による円安が景気回復を鈍化させた一方で、コロナ禍で先送りされた繰越需要の顕在化による押し上げや政府による水際対策の緩和などによるインバウンド需要の回復などにより全体的な景気は緩やかに持ち直した。

この様な中、本会は「中長期経営計画1stステージ」での実践結果の検証と見直しをおこない、「2ndステージ」の初年度として、引き続き3つの重点戦略（「公益事業の継続的な実施体制の確立」「収益事業の収支改善と新たな事業モデルの展開」「交流で成功した地域の創出とそのための人材の育成」）に基づき、「交流での成功地域を創り出した実績豊富な団体」となるため、株式会社農協観光（以下、農協観光）と連携を取りながら事業を展開した。

II. 事業項目別実施概況

第1. 事業実施事項および内容

〔継続事業＝公益目的事業〕

公益目的支出計画を踏まえた継続事業として、都市農村交流事業（体験交流事業、地域交流支援事業）・教育研修事業および広報・調査研究事業は、公益を目的として農山漁村地域の活性化に寄与するため、次の事業を実施した。

1. 都市農村交流事業（継続1）

〔1-1 体験交流事業〕

体験交流事業では、農家支援（作業）・交流により本物の食と農を理解する「援農ボランティア」、伝統的な食文化・安全安心な農産物について学ぶ「食育探訪」、自然・農林漁業体験、民俗芸能などの地域の伝統文化に触れて興味関心を高める「田舎暮らし体験」、農業・農村のファン創りを目的に手軽に農村での交流ができる「ふるさと体験交流」など、様々な交流企画を通じ、交流人口の拡大に努めている。

今年度は、コロナ禍の収束傾向と繰越需要の顕在化等により、堅調に推移

した。また秋企画から「新しい旅のカタチ」としてワクチン検査パッケージの導入を行い、Withコロナを見据えた事業を展開した。

(1) 援農ボランティア活動の拡充『快汗！猫の手援農隊』

本企画は、過疎化・高齢化により担い手不足が深刻な日本の農山漁村を応援するため、「農作業の支援」をしていただくボランティアを募り、作物や土に触れ、農家との交流を通じて、食と農の理解を深めることを目的としている。

援農隊参加者の高年齢化に伴い、援農隊のあり方も次世代を見据えた変化が求められている中、若年層に活動の輪を広めるための参加しやすい日帰り企画およびリピーター援農向けの宿泊企画や新企画等により、今年度は全国で受入れ地域数23箇所（企画数29本）、ボランティア総数321名（前年8箇所113名）の実績となった。

■ 全国23箇所 企画数29 [参加者総数321名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	チューリップ花摘み隊	4/13(水)～ 4/15(金)	富山県高岡市	12
2	柿摘蓄隊	5/6(金) 5/7(土) 5/8(日)	和歌山県紀の川市	12
3	水なす援農隊	6/4(土)	大阪府岸和田市	5
4	カーネーション片付け隊	6/11(土) 6/20(月)	神奈川県秦野市	38
5	秋間梅林 梅もぎ援農隊	6/12(日)	群馬県安中市	12
6	にんにく・玉ねぎ収穫隊	6/18(土)～ 6/19(日)	新潟県小千谷市	11
7	小布施ぶどう援農隊	6/24(金)～ 6/26(日)	長野県小布施町	15
8	フェイジョア援農隊	7/2(土)～ 7/3(日)	福島県いわき市	8
9	みかん摘果隊	7/30(土)	神奈川県大井町	16
10	雪中キャベツ植付け隊	8/8(月)～ 8/10(水)	長野県小谷村	6
11	ブルーベリー収穫隊	8/26(金)	千葉県木更津市	16
12	紀の川袋かけ隊	8/26(金)	和歌山県紀の川市	3
13	山ぶどう収穫選別隊	9/9(金)～ 9/11(日)	山梨県早川町	10
14	えな栗援農隊	9/16(金)～ 9/18(日)	岐阜県恵那市	6

15	さるなし収穫隊	9/25(日)～ 9/27(火)	長野県小谷村	7
16	京丹波黒大豆(枝豆)収穫・ 仕分け隊	10/15(土)	京都府京丹波町	9
17	保平かぶ援農隊	10/30(日)～ 11/1(火)	長野県松本市	8
18	フェイスジョア収穫隊	11/5(土)～ 11/6(日)	福島県いわき市	10
19	花柿援農隊	11/15(火) 11/17(木)	宮城県丸森町	8
20	西宇和みかん収穫隊	11/23(水)～ 11/25(金)	愛媛県西宇和	14
21	ゆず収穫隊	12/2(金)～ 12/4(日)	福島県矢祭町	14
22	鴨川市温州みかん総採り収 穫隊	12/10(土)	千葉県鴨川市	11
23	大井町温州みかん総採り収 穫隊	12/17(土) 12/20(火)	神奈川県大井町	27
24	紀の川八朔収穫隊	12/25(日)	和歌山県紀の川市	4
25	邑美人援農隊	1/28(土)	群馬県邑楽郡	10
26	あやほまれ収穫隊	2/5(日)	大阪府岸和田市	9
27	壱岐の島で牡蠣の殻洗い隊	2/9(木)～ 2/11(土)	長崎県壱岐島	6
28	ワカメ援漁隊	3/15(水)～ 3/17(金)	宮城県石巻市	9
29	もも摘蓄隊	3/25(土)	和歌山県紀の川市	5

(2) 食育交流企画の実施『田舎でいいね！食育探訪』

本企画は、農山漁村に古くから伝わる伝統的な食文化や農産物を体感し、味わい、子供から大人までの幅広い世代に対する「食と農」の理解促進を目的としている。今年度は、全国16箇所、22企画、参加者総数420名（前年13箇所376名）の実績となった。

■ 全国16箇所 企画数22 [参加者総数420名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	「春を満喫“里山の学校”で過ごす一日」～伝統野菜“のらぼう菜”収穫とアレンジ料理&“こんにやく作り”～	4/3(日)	東京都あきる野市	18
2	なにわの伝統野菜「碓井豌豆」と「河内一寸そら豆」収穫体験	5/7(土)	大阪府羽曳野市	19
3	農と食は身近にあった！～農家のお母さんと梅仕事～	6/11(土)	埼玉県さいたま市	16

4	「料理研究家」に学ぶデザート作りと野菜収穫体験～あびこ・手賀沼 食と農と歴史・文化を知る1日～	6/12(日)	千葉県我孫子市	19
5	日本三大玉露の産地！藤枝市「朝比奈」で茶摘み体験と玉露をたしなむ	6/25(土)	静岡県藤枝市	10
6	大阪菜発見！なにわの伝統野菜ゆかりの地をぶらり「玉造黒門越瓜」	6/25(土)	大阪府大阪市	9
7	夏の「なにわの伝統野菜」収穫と「堺鷹の爪」の歴史を訪ねて	7/10(日)	大阪府河南町	17
8	有機野菜でつくる野菜のスイーツ～野菜と過ごす楽しい時間～	7/12(火)	東京都世田谷区	4
9	大阪東部の農業を訪ねて「オカワカメ」収穫&柏原ぶどう狩り	9/2(金)	大阪府 東大阪市・柏原市	13
10	紀州伝統野菜「湯浅なす」収穫と「金山寺味噌」づくり体験	9/17(土)	和歌山県湯浅町	15
11	「料理研究家」に学ぶデザート作りと野菜収穫！～千葉のブランドおおまさりとさつまいも収穫～	10/9(日)	千葉県我孫子市	12
12	有機野菜でつくる野菜スイーツ	10/18(火)	東京都世田谷区	4
13	辻調理師専門学校校外学習	10/25(火) 10/26(水)	和歌山県紀の川市	118
14	産官学連携の食育体験モニター企画	10/30(日)	和歌山県紀美野町	20
15	京都食いく先生・藤田さんの畑でもっと野菜と仲良くなろう～秋～	11/13(日)	京都府綾部市	17
16	西洋野菜の収穫体験	11/19(日)	東京都あきる野市	6
17	大阪みかん収穫体験&ミニ食育講座	11/27(日)	大阪府和泉市	10
18	河南町『なにわの伝統野菜&冬野菜収穫体験』	12/3(土)	大阪府河南町	27
19	あきる野 里山の学校で過ごす初冬の日～収穫体験(里芋&大根)と”うどん作り&正月飾り作り”～	12/4(日)	東京都あきる野市	10
20	江戸東京野菜を学ぶ～伝統野菜・都市農業にふれよう～	12/11(日)	東京都練馬区	42
21	味噌&恵方巻作り体験	1/28(土)	埼玉県さいたま市	6

22	なにわの伝統野菜「高山真菜」収穫&お漬物作り体験	3/21(火)	大阪府豊能町	8
----	--------------------------	---------	--------	---

(3) 移住・就農喚起に向けた交流企画の実施『田舎暮らし体験』

本企画は、農業漁業にまつわる様々な伝統文化や地域行事のある美しい日本の農山漁村を訪れ、そこに暮らす人々との交流を通じて、田舎暮らしへの興味・愛着を持つよう訴求し、訪問者には移住・就農のきっかけづくりを提案することを目的としている。今年度は、全国6箇所7企画、参加者総数71名（前年3箇所31名）の実績となった。

■ 全国6箇所 企画数7 [参加者総数71名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	米どころ魚沼で田舎暮らし	5/14(土)～ 5/15(日)	新潟県魚沼市	9
2	奥出雲町 田舎暮らし	5/27(金)～ 5/29(日)	島根県奥出雲町	10
3	信州 白馬山麓で田舎暮らし 山菜の宝庫！小谷村で山菜狩り&白馬村の植栽体験	6/7(火)～ 6/9(木)	長野県 小谷村・白馬村	11
4	信州 白馬山麓の田舎暮らし 樽池自然園・五竜アルプス花三昧！	7/26(火)～ 7/27(水)	長野県 小谷村・白馬村	9
5	西会津の田舎暮らし	10/8(土)～ 10/10(月)	福島県西会津町	8
6	ホスピタリティーツーリズム専門学校大阪 校外学習	11/4(金)～ 11/5(土)	滋賀県東近江市	13
7	浜田市田舎暮らし	12/9(金)～ 12/11(日)	島根県浜田市	11

(4) 農業・農村ファン創りに向けた企画の実施『ふるさと体験交流』

都市生活者の農業・農村に対する理解や関心を高めるため、手軽に農村での交流ができる「体験型交流企画」を実施し、大人から子どもまで対象を広げ、農業・農村のファン創りを目指している。

さらに次のステップとして援農ボランティアや食育交流企画・田舎暮らし体験企画への参加を促すために「ふるさと体験交流」を実施した結果、今年度は、全国36箇所45企画、参加者総数1,171名（前年24箇所618名）の実績となった。

■ 全国36箇所 企画数45 [参加者総数1,163名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	「まりひめ」いちご狩り&桃ジャム作り体験	4/2(土)	和歌山県紀の川市	20
2	小津倶楽部でオツな一日！うどん打ちと和武桜の木の下でお花見会	4/2(土)	東京都八王子市	14
3	大多喜たけのこ掘りと君津いちご狩りで春を満喫！	4/16(土) 4/23(土)	千葉県大多喜町	44
4	春の味覚！あすかるびーとたけのこ収穫	4/17(日) 4/21(木) 4/24(日)	奈良県明日香村	64
5	新緑の中で山菜摘み体験	4/24(日)	滋賀県余呉町	21
6	淡路特産！カーネーションと玉ねぎ収穫体験	5/14(土) 5/15(日) 5/21(土)	兵庫県淡路島	67
7	宇治茶のふるさと和東町でお茶摘み&茶畑ウォーク	5/22(日)	京都府和東町	21
8	東京八王子の畑で、春野菜収穫&コーヒー焙煎で青空カフェランチ	5/22(日)	東京都八王子市	16
9	鳥取県特産！砂丘らっきょう収穫&お母さん直伝らっきょう漬け体験	5/29(日)	鳥取県鳥取市	19
10	露地びわ狩りと漁師料理 in 南房総	6/4(土)	千葉県南房総市	22
11	ブルーベリーと初夏野菜収穫&健康ランチで初夏を楽しむ！	6/9(木)	千葉県千葉市	21
12	淡路島で「完熟びわ狩り」と「じゃがいも」収穫体験	6/11(土)	兵庫県淡路島	22
13	南高梅もぎ&梅ジュース作り体験	6/18(土)	和歌山県田辺市	22
14	JA兵庫みらい自慢の「アスパラガス」と「トウモロコシ」収穫体験	7/15(金)	兵庫県加西市	40
15	夏の江戸東京野菜！寺島なすを訪ねる旅	7/23(土)	東京都墨田区	9
16	じゃがいも掘りと甘～いすいか収穫・地産地消のカフェランチ in 大田原	7/31(日)	栃木県大田原市	18
17	美味しい関城の幸水・梨狩りぶどう狩り in やさと	8/9(火)	茨城県筑西市	21
18	名物「にらそば」&「組子づくり」と梨狩りで鹿沼を感じる！	8/21(日)	栃木県鹿沼市	13
19	鳥取県ブランド！二十世紀梨とブルーベリー収穫体験	8/28(日)	鳥取県鳥取市	21
20	千葉の名産品を収穫しに行こう！落花生・さつまいも・いちじく	9/11(日) 9/12(月)	千葉県香取市	43
21	日本一の栗の産地・笠間で栗拾いとごま収穫体験	9/23(金)	茨城県笠間市	14

22	秋の味覚！丹波くりひろい体験	9/29(木) 10/2(日)	京都府京丹波町	38
23	「野菜ソムリエ」わたなべさんちで旬の野菜収穫&九十九里を知る！	10/1(土) 2/25(土)	千葉県山武郡市	45
24	あけぼの大豆(枝豆)・きゅうり収穫と身延のゆばを味わう	10/15(土)	山梨県身延町	22
25	和歌山ブランド！紀の川柿収穫体験	10/15(土) 10/16(日)	和歌山県紀の川市	57
26	秋のみどり！黒大豆枝豆収穫体験	10/22(土)	兵庫県西脇市	29
27	巨大梨「にっこり」・さつまいも・しいたけ「宮どんこ」収穫 in うつのみや	10/29(土)	栃木県宇都宮市	18
28	さつまいも&枝豆収穫体験	11/4(金)	大阪府河内長野市	18
29	「柿の王様」富有柿とりんご食べ比べで食欲の秋を楽しむ in 石岡	11/6(日)	茨城県石岡市	29
30	紀の川市藤井の里でキウイ&レモン収穫体験	11/12(土)	和歌山県紀の川市	14
31	東京八王子の畑で、秋野菜収穫&みんなで作ろう！ほくほく芋煮会	11/13(日)	東京都八王子市	14
32	地元で伝わる本物の田舎料理！滑川町で発酵食品と仲良くなろう！	11/20(日)	埼玉県滑川町	21
33	『花御所柿』収穫体験と鳥取県智頭宿を訪ねて	11/26(土)	鳥取県八頭郡	26
34	小津倶楽部でオツな一日！里山の野菜収穫とピザ窯でこんがりピザづくり	11/26(土)	東京都八王子市	7
35	群馬の冬野菜を収穫しに行こう！下仁田ネギ・国分になじん・国府白菜	12/8(木)	群馬県下仁田町	17
36	みかん狩りと冬の美味しい野菜収穫・選べる！小田原の海の幸を味わう	12/18(日)	神奈川県小田原市	19
37	大阪菜発見！なにわの伝統野菜ゆかりの地をぶらり～天王寺蕪～	1/21(土)	大阪府大阪市	7
38	岸和田ブランドにんじん「彩誉」収穫体験	1/27(金)	大阪府岸和田市	16
39	泉州キャベツ&極早生玉ねぎ収穫体験！	1/28(土)	大阪府泉佐野市	18
40	南房総でいちご狩りと菜花収穫体験をしよう！	2/4(土)	千葉県南房総市	18
41	八尾若ごぼう収穫体験	2/12(日)	大阪府八尾市	15
42	いちご&とまと収穫体験	3/3(金) 3/4(土)	兵庫県加東市	57
43	早春の恵み！軟化ウドと春トマト収穫 in 大田原	3/12(日)	栃木県大田原市	17

44	よもぎの草もちづくりと伝統野菜“比企のらぼう菜”収穫	3/25(土)	埼玉県滑川町	21
45	江戸東京野菜のらぼう菜収穫と森のワークショップ	3/30(木)	東京都八王子市	83

(5) ふるさと倶楽部会員およびファンの拡大

都市農村交流事業の理解促進に向け、SNSによる旅マエ・旅アト情報の配信頻度をあげ、LINEは、旅マエの宣伝媒体として活用し、Facebook及びInstagramは、実施後の旅アトの情報を配信した。

これらの結果、ふるさと倶楽部会員は5,252名（前年度末比26名増）と微増だったが、Facebook登録者数932名（前年度末比100名増）、LINE登録者数518名（前年度末比48名増）となり、昨年度下期に開設したInstagramにおいては、フォロワー数297（前年度末比213名増）となり、SNSの利用者が増加した。

(6) 産地直送サービス「おうちでつながろ。」

体験交流企画の受入地域への支援および受入地域と会員とのつながりの維持・発展を目的とした産地直送サービス「おうちでつながろ。」は、ふれあい誌掲載により7地域7商品を紹介し、チラシ掲載により2地域2商品を販売した。

No.	商品名称	受入地域（提携先）
2022年春号「ふれあい」誌掲載分		
1	日本茶飲み比べセット、玉露「岡部の峰」	静岡県 JA 大井川
2	淡路島たまねぎ	兵庫県淡路島生産者
2022年春号「ふるさと倶楽部通信」チラシ掲載分		
3	季節のミネラル野菜	福島県西会津町
2022年夏号「ふれあい」誌掲載分		
4	甲斐の桑茶	山梨県甲斐市
5	万願寺甘とう	京都府 JA 京都にのくに
6	イチジク	和歌山県 JA 紀の里
2022年夏号「ふるさと倶楽部通信」チラシ掲載分		
7	ラズベリー&ゆずスイーツ	福島県矢祭町
2022年秋号「ふれあい」誌掲載分		
8	小糸在来®	千葉県 JA きみつ

2023年冬号「ふれあい」誌掲載分		
9	はとむぎ美人	栃木県(有)農業生産法人かぬま

〔1-2 地域交流支援事業〕

農山漁村地域の所得向上および地域の活性化を実現するため、株式会社農協観光ならびに一般社団法人日本ファームステイ協会（JPCSA）と連携して、地域協議会や自治体等に寄り添いながら支援地域の体制整備強化を行った。

また、株式会社農協観光から受入れている地域づくり推進担当を本所および地域に配置（合計8名）し、地域づくり支援の体制強化を図った（配置地域：本所4名、岩手県1名、山形県1名、静岡県1名、岡山県1名）。

（1）地域づくり推進の展開

中長期経営計画の目標である成功地域の創出を早期に実現させるため、全国各地における課題やニーズに現場で向き合い、課題解決および持続可能な地域づくりを目指して各種支援を実践した。

① 東北農政局

東北農政局による広域ネットワーク推進対策「農泊促進プロモーション」を受託し、ヒアリング調査、セミナー、個別支援、ファムトリップ、ナレッジ集作成等を実施した。

② 青森県

青森県農林水産部構造政策課による「グリーン・ツーリズム受入実践者対象ウェブ活用研修会等実施業務」を受託し、受入実践者を対象にウェブ活用研修会および個別訪問での支援を行った。

③ 福島県

福島県観光交流課による「農家民宿実態調査業務」を受託し、県内農家民宿経営者向けのヒアリング調査を行った。

④ 福島県石川町

石川町農泊推進協議会による「農泊地域高度化促進事業」を一部受託し、食の多様化研修会、モニターツアー等を実施した。

⑤ 新潟県田上町

田上町農・泊連携推進協議会による「農泊推進事業（3年目）」を一部受託し、（株）農協観光新潟エリアセンターと連携し体験コンテンツおよび食メニューの開発等を行った。

⑥ 栃木県鹿沼市

かぬまいい旅推進協議会による「農泊推進事業（2年目）」を一部受託し、農泊モニターツアー等を実施した。

⑦ 東海農政局

広域ネットワーク推進対策「農泊促進プロモーション」を一部受託し、農泊プラットフォーム構築促進セミナー、モニターツアー等を実施した。

⑧ 静岡県浜松市

浜松三ヶ日みかんの里協議会による「農泊推進事業（1年目）」を一部受託し、サイクリングプログラム開発研修会やリスクマネジメント研修会等を実施した。

⑨ 三重県

三重県農林水産部農山漁村づくり課による「農山漁村活性化に向けた教育旅行事前学習プログラム作成業務」を受託し、ヒアリング調査、ワークブック作成、動画作成、営業プロモーション等を実施した。

⑩ 近畿農政局

近畿農政局による広域ネットワーク推進対策「農泊促進プロモーション」を受託し、ヒアリング調査、個別支援、農泊ガイドブック作成、動画作成、意見交換会等を実施した。

⑪ 和歌山県

和歌山県農林水産部 里地・里山振興室による「都市住民ボランティア援農体制モデル事業」を受託し、受入先農家を対象とした安全管理研修、援農ボランティア「わかやま援農」を実施した。

⑫ 鳥取県

鳥取県中山間地域政策課による「鳥取県農泊ワーケーションセミナー業務」を受託し、オンラインによる農泊×ワーケーションセミナーを実施した。

⑬ 愛媛県

愛媛県農政課による「愛媛県農泊人材育成研修事業」を受託し、農家民宿

開業者・実践者向けセミナーを実施した。

(2) 雇用就農による農業従事者確保に向けての取り組み

農業経営者の減少と高齢化の進展等により、農業担い手の確保が課題となっている中、近年の6次産業化の取り組みや農業法人の増加等により、農業求人数は増加傾向にあり、農業従事者の確保が期待される場所である。本会は、労働者の雇入れ、労働条件の決定・管理、労働関係法令、社会保険制度等について農業法人等における自発的な雇用改善の取り組みを推進するための支援を行う厚生労働省の令和4年度農林業職場定着支援事業（農業雇用改善推進事業）を受託し、社会保険労務士等と連携しながら、全国51箇所（参加1,271名）で雇用管理研修会を開催し、合わせて個別支援等を行った。

(3) 観光立国推進施策と連動した全国推進への取り組み

政府が提唱する「明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年3月30日）」また、新型コロナウイルス感染症拡大により一変した観光の状況に対して策定された「感染拡大防止と観光需要回復のための政策プラン」（令和2年12月3日）において、国内外の観光客をひきつける滞在コンテンツ充実の対応策として「城や社寺、古民家等の個性ある宿泊施設整備」を掲げている。

本年度は、文化財の観光活用を拡大する準備として取組事例の調査ならびに昨年に引き続き城郭の活用を促進するため、事業化に向けた専門家派遣によるサポート事業（「城泊等実施のための城等の歴史的資源保存・活用ガイドライン策定及び専門家派遣事業」）また、寺院の観光利用における一層の高度化を推進するための調査事業（「寺泊等の社寺における宿泊・滞在型コンテンツの高質化推進事業」）を観光庁から受託し、城泊への理解促進並びに事業周知を兼ねたオンラインセミナー（生中継）の開催、文化財活用の取組事例の調査、有識者による検討委員会の開催、専門家の派遣を行った。

【城泊オンラインセミナー実績】

開催日	事業	会場	場所	参加者
7月29日	城泊	ホテルニューオータニ大阪	大阪府	185名

【専門家派遣申込み・採択実績】

事業	申込み件数	採択件数
城泊	6件	4件

城泊専門家派遣については、採択の4件とも専門家の助言のもと、事業計画が策定され、引き続き現地において実現化に向けた調整が行われ、一昨年の城泊専門家派遣を行った福山城（広島県）では、開城400年記念事業の一環として、城泊の実証実験が行われるなど、本事業の成果が具現化しつつある。

また、寺院の観光利用における一層の高度化を推進するための調査事業では、海外富裕層を主な顧客とするトラベルデザイナーへのヒアリングをはじめ、国内社寺で行われている高質化への取り組みを調査、課題と具現化へ向けての展望をナレッジ集にまとめた。

（4）農村RMO形成支援事業

人口減少や高齢化が急速に進行している中山間地域、特に、集落単体での農用地の保全や農業生産のみならず集落機能の維持も難しくなる状況にある山間部において、広域的な範囲で支え合う組織づくりを進める総合的な対策として農林水産省が令和4年度から推進する農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業（農山漁村振興交付金（中山間地農業推進対策））を活用し、地域フォーラムなど全国における普及啓発活動を中心とした農村RMO形成支援事業を時事通信社と連携して行った。

（5）農福連携の確立及び取り組みの加速や強化を目指す支援

農福連携の取り組みの構想段階又は取り組みを開始して間もない取組主体の農福連携の確立及び地域における農福連携の取り組みの加速や強化を目指す地域コンソーシアムの設立に向け、民間団体等の専門家派遣による人的支援を行う本会の「農福連携の取組主体の発掘と取組への支援」事業が昨年度に引き続き、農林水産省の令和4年度農山漁村振興交付金事業（農福連携対

策のうち普及啓発等推進対策事業)に採択された。

今年度は、各地方農政局等(9箇所)の協力を仰ぎ、49組織(内、個別支援42組織、コンソーシアム立ち上げ支援7組織)を支援対象組織として選定した。また、個別支援42組織のうち、農福連携対策事業(農福連携支援事業及び農福連携整備事業)の公募に向けた提案書・費用対効果算定表の作成等の指導を7組織に対し実施した。

取組主体別	支援	支援実施都道府県	取組主体数
個別団体	確立・継続	北海道・秋田・茨城(2)・東京(2)・神奈川・新潟・静岡・富山(2)・愛知(4)・岐阜・三重(2)・石川・富山(2)・福井(2)・京都・大阪(2)・兵庫・奈良(2)・岡山(2)・広島(3)・高知・熊本(3)・鹿児島(3)・沖縄	42
コンソーシアム団体	加速・強化	福島・愛知・三重・岡山・広島・高知・南九州3県合同(熊本・宮崎・鹿児島)	7 (9)

2. 教育研修事業(継続2)

農山漁村をはじめとする地域の観光の振興と促進を行い、国民が豊かな生活を送ることができる地域社会の創造に寄与することを目的とし、旅行業に係る各種研修会を地方中心に開催した。

(1) 観光振興のための資格取得研修の実施

コロナ禍において、本会作成の「安心安全研修プラン」に則り、感染予防対策を徹底した集合研修会と受講生の利便性ならびに感染防止を考慮し、オンライン研修会を開催した。

① 旅程管理研修

企画旅行の確実な実施に義務づけられた旅程管理主任者の資格を取得するために各地域登録旅行業者従業員等を対象に、旅行業法に基づく登録研修機関として、「旅程管理研修」(法定研修)を全国主要都市および地方都

市において開催した。

■「旅程管理研修」（法定研修）の開催結果

研修名	開催会場数	開催都市	受講者数
総合旅程 管理研修	18 (前年 16)	盛岡・東京(2回)・長野・新潟(2回)・ 名古屋・ 富山・大阪・松江・広島(2回)・徳島・ 高松・福岡(2回)・那覇(2回)	60 (前年 55)
国内旅程 管理研修	35 (前年 24)	札幌・盛岡・仙台・水戸・東京(6 回)・長野・新潟(2回)・長岡・静岡 岡・名古屋(2回)・ 富山・金沢・福井・大阪・松江・岡山・ 広島(2回)・山口・徳島・高松・松 山・高知・福岡(2回)・鹿児島・那 覇(2回)	262 (前年 139)

② 旅行業務取扱管理者国家試験対策講座

旅行者の従業員や旅行業界をめざす方を対象に、国家資格である旅行業務取扱管理者の資格取得促進を目的としている「総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」および「国内旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」を集合研修会とオンライン研修会を併用して開催した。

■「総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」の開催結果

講座名	開催会場数	開催都市	受講者数
総合旅行業務 取扱管理者国家 試験対策講座	3 (前年 11)	東京	23 (前年 33)

■「国内旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」の開催結果

講座名	開催会場数	開催都市	受講者数
国内旅行業務 取扱管理者国家試 験対策講座	5 (前年 6)	仙台・東京(2回)・ 大阪(2回)	38 (前年 34)

3. 広報・調査研究事業（継続3）

調査研究事業は、地域交流支援事業と関連付けた調査・研究ならびに本会事業の試行と実証実験を実施した。また、有用な地域資源のひとつである民俗芸能の活用実践の場づくりや、本会各事業との産学連携も視野に入れたイベントを実施した。

広報事業は、SNSを含めた多様なメディアを効果的に活用し、積極的な広報・プロモーション活動に取り組んだ。

（1）農山漁村における民俗文化資源の保存・普及支援及び調査の実施

農山漁村地域の人々の暮らしと郷土芸能のつながりを考えることを目的として、新潟県柏崎市の柏崎市綾子舞振興保存会を招聘し、『第33回民俗芸能と農村生活を考える会』を令和5年1月7日に東京都千代田区の日本教育会館で、3年ぶりに実開催し、コロナ禍にもかかわらず29名が出演、123名が来場された。

（2）本会事業の周知を促進するためのWEB・SNS等活用の実施

「ふるさと倶楽部会員」をはじめ、都市住民を主な対象として、本会事業活動への理解促進を目的に、部署ごとに広報担当者を選任し、事業と関連する誌面構成にリニューアルした広報誌「ふれあい」を、四季ごとに（4月、8月、10月、2月）4回発刊した。

また、民俗芸能と農村生活を考える会、学生地域づくり交流大賞では受付をWEBサイト上のシステムを使用し、実施後にはアーカイブ動画をホームページ上で公開、サイトの利活用の促進をはかるとともに、SNSの活用として、広報誌内の記事とTwitterの連動を新たに開始した。

本会会員をはじめとしたJAグループの関係団体・組織に対して、機関紙「つなぐ」を発行し、今年度の本会各事業の取り組みを紹介した。

（3）地域づくりに役立つ広報・プロモーション方策の試行・確立

「農」と「食」を通して地域で活躍している学生等の活動を表彰する『第3回学生地域づくり・交流大賞』を実施した。

令和5年2月10日（金）に東京都千代田区のアグベンチャーラボにおいて、最終審査会を開催し、参加団体に各賞を授与した。

日本農業新聞をはじめ、団体が活動している地域の地方紙が最終審査会の模様を掲載することで、農山漁村地域の将来を担うであろう若者の人材育成、地域活性化の寄与となるとともに、地域に対し本会事業の周知となる、新たな広報・プロモーション方策を立てることができた。

【表彰結果】

- | | | | |
|-------------|------------|----|------------|
| ■大 | 賞：宮城学院女子大学 | 石原 | ゼミナール |
| ■優秀 | 賞：松山大学 | 愛南 | マダイ応援団 |
| ■優秀 | 賞：郡山女子大学 | 郡司 | 研究室 |
| ■優秀 | 賞：郡山女子大学 | | 食品化学研究クラブ |
| ■アグベンチャーラボ賞 | 新潟食料農業大学 | 鼓岡 | 地域連携プロジェクト |

（4）インバウンド等による農山漁村地域の活性化に向けた調査研究

アフターコロナを見据え、本会地域交流支援事業と関連付けたインバウンド等による農山漁村地域の活性化に向けた方策の調査・研究として、農泊推進で関連の深い岩手県遠野市で実証実験を行った。

また、日本ファームステイ協会と連携し、「アルベルゴ・ディフーズ」認証推進ワーキンググループの事務局として、全国の4箇所（岩手県八幡平市、宮城県蔵王町、山梨県身延町、長崎県平戸市）の農泊地域に対して、認証に向けた現地視察やセミナーを実施した。

〔収益事業〕

収益事業は、観光人材育成事業、および日本農業検定事業であり、法人の持続的な運営の必要財源を安定確保するための事業として、事業収支の確保を目標として取り組んだ。

4. 観光人材育成事業（収益）

観光立国ならびに地方創生の動きを踏まえ、観光・地域づくりに関する研修・講座を提供し、コロナ禍における観光人材の育成に取り組んだ。

（1）観光客受入を促進する研修の実施

① 研修・講演

農協観光協定旅館ホテル連盟を介して観光施設の従業員を対象に、観光客の受入に必要な基礎知識の習得やおもてなしサービス接遇向上等の人材育成研修会を実施した。

6月28日 滋賀県大津市 顧客接遇研修

1月18日 滋賀県大津市 顧客接遇研修

② JATA支援事業

一般社団法人日本旅行業協会（JATA）からの要請に基づき試験委員の委嘱を受けた。

③ 旅行サービス手配業務取扱管理者研修（法定研修）

「旅行サービス手配業」の資格者養成の研修機関として観光庁に登録されている「旅行サービス手配業務取扱管理者研修」を下記の通り開催した。

■ 「旅行サービス手配業務取扱管理者研修」（法定研修）の開催結果

研修名	開催会場数	開催都市	受講者数
旅行サービス手配業務 取扱管理者研修	1 (前年1)	大阪市	6 (前年2)

(2) 受入地域の体制整備に係る研修の開発と実施

① 「秩父多摩甲斐国立公園広報パンフレット等作成業務」の実施

環境省関東地方環境事務所による「秩父多摩甲斐国立公園広報パンフレット等作成業務」を受託し、パンフレット作成、勉強会を実施した。

② 「キラリ！農スタイル」魅力発信業務の実施

宮城県農政部農業振興課による「キラリ！農スタイル魅力発信業務」を受託し、大学生等を対象に就農をテーマにしたイベント、モニターツアー、インターンシップを実施した。

③ 「農山漁村発イノベーション」業務の実施

宮城県農政部農山漁村なりわい課による「農山漁村発イノベーション業務」を一部受託し、6次化研修会開催に向けた研修を実施した。

④ 「里地里山地域資源活用モデルツアー等業務」の実施

神奈川県農水産部農地課による「里地里山地域資源活用モデルツアー等業

務」のアドバイザーとして、現地ヒアリング調査、モニターツアー、安全管理研修会、受入マニュアル作成等を実施した。

⑤ 「農泊人材育成研修」の実施

熊本県農林水産部むらづくり課による「農泊地域人材育成」を受託し、農泊ターゲット別誘客研修会に向けたヒアリング調査、ターゲット別研修会、農泊推進セミナー等を実施した。

⑥ (一社) 日本ファームステイ協会との連携

(一社) 日本ファームステイ協会事務局として、社員総会、理事会・評議会、賛助会員報告会の開催、メールマガジンの発行(6回)、同協会が実施する「品質評価支援制度」における評価支援員を養成する研修の実施(2日間1回)、地域が主催する研修会への出講(1回)を行った。また、保険ワーキンググループにおいては、新たな農泊地域向けの保険商品の検討を進め、賛助会員である共栄火災を幹事会社とし令和5年度上期の販売を予定している。

(3) 海外コンサル業務への参画

本邦内の農山漁村の活性化の一助とすべく、海外の観光・農業関連JICA技術協力プロジェクト等に継続的に参画し、海外における各種情報収集や支援ノウハウの習得に努めた。

加えて、アジア農業協同組合振興機関(IDACA)と連携し、同機関が実施する研修会へ本会職員を研修講師として派遣した。

① セネガル共和国(食料安全保障とレジリエンスのガバナンスに係る

能力向上プロジェクト(第二段階))

セネガルでは食料安全保障とレジリエンス強化に向けて、食料安全保障諮問委員会事務局(SECNESA)の下、各種活動が実施され、本会は日本工営(株)の補強要員として本業務に2名が従事し、所定の業務を完了した。

担当期間	モニタリング評価/統計分析 令和4年4月～令和4年7月(国外:計77日間)
主な業務	①食料安全緊急警報システム関連業務手引書の最終化、手引書に基づく活動実施支援

	②国家食料安全保障・レジリエンス強化プログラムモニタリング評価業務手引書の最終化、手引書に基づく活動実施支援 ③SECNSA職員等に対する技術指導研修ツール類の最終化 ④成果普及セミナーの開催 ⑤プロジェクト業務完了報告書の作成
--	---

② セネガル共和国（セネガル川流域コメバリューチェーン強化プロジェクト）

セネガルでは主食であるコメの増産が重要課題であり、セネガル川流域は灌漑稲作による国内有数のコメ生産拠点である。本プロジェクトは、同流域のコメ増産と農家の収益性向上に向けたバリューチェーン改善を目指しており、本会は、（株）アースアンドヒューマンコーポレーションの補強要員として1名が従事した。

担 当	I C T利活用
期 間	令和4年5月～令和5年2月（国外：計90日間）
主な業務	①対象流域におけるI C T利活用にかかる現状調査 ②I C T関連パイロット事業計画の策定 ③業務進捗報告書の作成

③ アジア農業協同組合振興機関（IDACA）との連携

アジア農業協同組合振興機関（IDACA）と連携し、JICA「農民組織の設立・強化」コースにおいて、「農協と地域資源活用による事業推進」をテーマにグリーン・ツーリズムによる地域振興等についてオンラインで講演した。

5. 日本農業検定事業（収益）

検定実施10年目を迎えた日本農業検定事業は、小学生から一般の方々を対象に農業の基礎的な知識の習得を図るとともに、JAグループにおいては、職員研修や基礎知識の習得を目的に拡充に努めた。

（1）農業への理解促進と関心を高めるための農業検定の拡充

日本農業検定受検者拡大に向けては、農の教養書としての認知度の向上を図るため、全国の書店でのテキスト販売を継続するとともに新型コロナウイルス感染の再拡大に伴い可能な限りの直接営業に加えて、JAグループにおいては、JAならびに都道府県中央会やJA関連企業、また、学校関係では、

校長会や教育関係の研究会・学会を含む小学校・中学校・高校・大学、一般では、大手ホームセンター、農業関連団体、市民生協、農福関連団体等へ郵送等による資料の配布を行った。また、農業高校進学の中学校をターゲットに都内の農業高校のある近隣の中学校へも資料を郵送した結果、申込者数2,130名、受検者数1,971名となった。

(2) 農検栽培キット(豆苗)の販売促進

中学校の技術家庭科の補助教材である栽培キット販売は、メーカーの今年度の発注数は25,100個となり、昨年より900個の減少となったが、栽培キットを使用した栽培教室の依頼が増え、恒例の渋谷区こども科学センターに加えて、富士見市健康増進センター、世田谷区教育総合センター、渋谷区清掃事務所の「渋谷区もったいない」企画、江戸川区鹿骨小学校など8回実施した。

6. 農福連携事業(収益)

農福連携の現場において不足している農福連携を実践する手法を具体的にアドバイスできる専門人材(農業版ジョブコーチ)を育成する「農福連携サポーター育成研修」と農福連携の継続・確立のための情報提供や相談などによる「農福連携スタートアップ支援」の事業化に向けた取り組みを開始した。

本年は、「農福連携スタートアップ支援」において、NPO法人による「農福連携対策(農福連携支援事業及び農福連携整備事業)(2年目)」事業の一部を受託したほか、社会福祉法人(愛知県)1件、行政(愛知県)1件の研修会出講を受託した。また福島県内において、JA直売所を視察し、JA直売所における農福連携の課題調査を実施した。

第2. 経営基盤強化策

本会の経営基盤の充実・強化のために、中長期経営計画に沿って、職員の人財育成・教育研修に関する施策を行うとともに、財務の安定性確保をはかるための資産運用を実施した。

(1) 人財育成のための取り組み

全職員に対して「WEB研修（知っておきたい！育児・介護休業制度）」を実施し、「働きやすい職場づくり」の一環として、制度・法令の理解促進に努めた。

また、職員が部署横断的メンバーで構成する「プロジェクト」については、古民家を活用した地域づくりを实践するための「農泊・古民家プロジェクト」、農林水産省が進める「農業女子プロジェクト」と連携した「農業女子つ・な・ぐプロジェクト」を通じて職員の自主性・主体性の醸成をはかり、実践的な人財育成を取り進めた。

(2) 資産運用の充実

資産運用としての有価証券については、94,500千円の利金収入があった。

また、流動性・安全性・収益性等のバランスに配慮したポートフォリオの構築をめざし、分散運用の一環として不動産投資信託（私募リート）を6件（599,976千円）購入した。

(3) 情報システム機能の充実

情報システム機能の拡充に向けては、国税電子申告・納税システムである「e-Tax（イータックス）」および地方税ポータルシステムである「eLTAx（エルタックス）」を導入し、諸税の申告納税事務の省力化をはかりました。

また、経費精算システムを導入し、経費の申請・精算業務ならびに支払業務にかかわるペーパーレス化を進めるとともに、ワークフロー機能の運用を開始した。

以 上